

二〇二一年度

豊島岡女子学園中学校

入学試験問題

(一回)

国語

注意事項

- 一. 合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 二. 問題は から 、2 ページから 17 ページまであります。
合図があったら確認してください。
- 三. 解答は、すべて指示に従って解答らんに記入してください。

□ 次の文章を読んで、後の一から八までの各問いに答えなさい。

(ただし、**字数指定のある問いはすべて句読点・記号も一字とする。**)

学ぶというのは創造的な仕事です。

それが創造的であるのは、同じ先生から同じことを学ぶ生徒は二人としないからです。

だからこそ私たちは学ぶのです。

私たちが学ぶのは、万人向けの有用な知識や技術を習得するためではありません。自分がこの世界でただひとりのかけがえのない存在であるという事実を確認するために私たちは学ぶのです。

私たちが先生を敬愛するのは、先生が私の唯一無二性の保証人であるからです。

もし、弟子たちがその先生から「同じこと」を学んだとしたら、それがどれほどすぐれた技法であっても、どれほど洞察に富んだAチケンであっても、学んだものの唯一無二性は損なわれます。だって、自分がいなくても、他の誰かが先生の教えを伝えることができるからです。

だから、弟子たちは先生から決して同じことを学びません。ひとりひとりがその器に合わせて、それぞれ違うことを学び取ってゆくこと。それが学びの創造性、学びの主体性ということです。

「この先生のこのすばらしさを知っているのは、あまたある弟子の中で私ひとりだ」という思いこみが弟子には絶対に必要です。それを私は「誤解」というふうに申し上げたわけです。

それは恋愛において、恋人たちのかけがえのなさを伝えることばが「あなたの真の価値を理解しているのは、世界で私しかない」ということと同じことです。①この先生の真の価値を理解しているのは、私しかない。

でも、「あなたの真価を理解しているのは、世界で私しかない」という言い方は、よく考えると変ですよ。

それは、「あなたの真価」というのは、たいへんに「理解されにくいもの」であるということですから。つまり、あなたは、誰もが認める美人や誰にも敬愛される人格者ではない、ということですから。

不思議な話ですけど、②愛の告白も、恩師への感謝のことばも、どちらも「あなたの真価は（私以外の）誰にも認められないだろう」という「世間」からの否定的評価を前提にしているのです。

でも、その前提がなければ、じつは恋愛も師弟関係も始まらないのです。「自分がいなければ、あなたの真価を理解する人はいなくなる」という前提から導かれるのは、次のことばです。

だから私は生きなければならない。

そのようなロジックによって、私たちは ③ のです。

私たちが「学ぶ」ということを止めないのは、ある種の情報や技術の習得を社会が要求しているからとか、そういうものがないと食っていけないからとか、そういうシビアな理由によるものではありません。

もちろん、そういう理由だけで学校や教育機関に通う人もいますけれど、そういう人たちは決して「先生」に出会うことができません。だって、その人たちは「他の人ができることを、自分もできるようにするため」にものを習いにゆくわけですから。資格を取るとか、ナントカ検定試験に受かるとか、免状を手に入れるとか、そういうことは、「学び」の目的ではありません。「学び」にともなう副次的な現象ではありませんけれど、それを目的にする限り、そのような場では、決して先生に出会うことはできません。

④先生というのは、「みんなと同じになりたい人間」の前には決して姿を現さないからです。

だって、そういう人たちにとって、先生は不要どころか邪魔なものだからです。

先生は「私がこの世に生まれたのは、私にしかできない仕事、私以外の誰によっても代替できないような責務を果たすためではないか……」と思った人の前だけに姿を現します。この人のことばの本当の意味を理解し、このひとの本当の深みを知っているの

は私だけではないか、という幸福な誤解が成り立つなら、どんな形態における情報伝達でも師弟関係の基盤となりえます。書物をBkeyユシテの師弟関係というのはもちろん可能ですし、TV画面を見て、「この人を先生と呼ぼう」と思うことだって、あつて当然です。

要するに、先方が私のことを知っていきませんが、私の方に「このひとの真の価値を知っているのは私だけだ」という思い込みさえあれば、もう先生は先生であり、「学び」は起動するのです。

「学びの主体性」ということばを私はいま使いましたが、このことばが意味するのは、生徒がカリキュラムを決定するとか、生徒の人気投票で校長先生を選ぶとか、授業中に入り自由であるとか、そういうことではありません。まさかね。

生徒自身を教育の主体にするというのは、そういう制度的な話ではありません。「学びの主体性」ということで私が言っているのは、人間は自分が学ぶことのできる、ことしか学ぶことができない、学ぶことを欲望するもの、しか学ぶことができないというCジメIの事実です。

当たり前ですよね。

どんなにえらい先生が教壇に立って、どれほど高尚なる学説を説き聞かせても、生徒が居眠りをしていては「学ぶ」という行為は成就しません。⑤日本の高校生の前でソクラテスがギリシヤ語で哲学を語っても、それこそ *It's Greek to me* です。

学びには二人の参加者が必要です。送信するものと受信するものです。そして、このドラマの主人公はあくまでも「受信者」です。

先生の発信するメッセージを弟子が、「教え」であると思ひ込んで受信してしまうときに学びは成立します。⑥「教え」として受信されるのであれば、極端な話、そのメッセージは「あくび」や「しゃっくり」であつたつてかまわないのです。「嘘」だつてかまわないのです。

〔注〕 * 1 ロジック論理。

* 2 副次的・二次的なさま。

* 3 カリキュラム教育内容の計画。

* 4 ソクラテス・古代ギリシャの哲学者。

問一 ―線 A 「チケン」・ B 「ケイユ」・ C 「ジメイ」のカタカナを正しい漢字に直しなさい。

(一画一画でいいにはつきりと書くこと。)

問二 ―線①「この先生の真の価値を理解しているのは、私しかない」とありますが、このようなとらえ方を筆者はどのように表現していますか。最も適当な言葉をこれより後の本文中より五字で探し、抜き出ささい。

問三 ―線②「愛の告白」を説明した以下の文の空らんに入る最も適当な言葉を本文中より七字で探し、抜き出ささい。ただし、空らんには同じ言葉が入ります。

愛の告白は 相手の

() を伝える言葉であるとともに、相手に対する自分の

() を確認するものである。

問四 空らん ③ に入る言葉として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人生の意義を教えられている

イ 師への否定的評価を覆くつがえしている

ウ 師への感謝を表している

エ 教育の真の意味を理解している

オ 自分の存在を根拠こんきよづけている

問五 —線④「先生というのは、『みんなと同じになりたい人間』の前には決して姿を現さない」とありますが、これについて以下の問に答えなさい。

I 「みんなと同じになりたい人間」の前に現れる人とはどのような人ですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 誰もが教えらるるようなある種の情報や技術を提示できる人。

イ 検定試験の合格や免状の取得にも学びの価値を見い出せる人。

ウ 学びの副次的な事柄と本質的なものとを正しく区別できる人。

エ 他の誰によつても代替できないような仕事を追い求める人。

オ 先生の人格を通して生きる上での現実的な知恵を学ぼうとする人。

II 「先生」とはどのような人間の前に現れるのですか。次の説明文の空らんに入る最も適当な言葉を本文中より五字で探し、抜き出しなさい。

自己の () を求める人間

問六 —線⑤「日本の高校生の前でソクラテスがギリシャ語で哲学を語つても」とありますが、ここでの「日本の高校生」とはどのような人間ですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 集中力が持続せず居眠りをする人間。 イ ギリシャ語を理解できない人間。

ウ 人生における哲学の意義を理解できない人間。 エ 様々な学説に耳を傾けない人間。

オ 高尚な哲学を学びたいと思っていない人間。

問七 ー線⑥『「教え」として受信されるのであれば、きよくたん極端な話、そのメッセージは『あくび』や『しゃっくり』であつたつてかまわないのです』とありますが、なぜこのように言えるのですか。その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 相手からのメッセージを「教え」としてもうしん盲信している以上、どのような情報であれ何らかの価値を認めないわけにはいかないから。

イ 相手を真に理解しているのは自分だけだと思ひ込こんでいれば、情報伝達の形態を問わず自ら学び、必ず何らかの価値を發見できるから。

ウ 相手がどのような形態で情報を伝達してきても、師弟関係のきばん基盤を整えていく上で特に問題にしなければならぬことではないから。

エ 一見意味のないように見えても先生からのメッセージというだけで価値が生まれ、そこに学びがあるかどうかは問題ではないから。

オ 師弟関係において先生という存在は絶対的であり、どんな些細ささいなことからも教えを汲み取ろうと努めることは弟子として当然だから。

問八 筆者は「学び」をどのようなものと考えていますか。五十字以内で説明しなさい。

② 次の文章を読んで、後の一から九までの各問いに答えなさい。

(ただし、字数指定のある問いはすべて句読点・記号も一字とする。)

授業が終わってぼくは、逃げるように家に帰った。リュックをダイニングのフローリングに投げ出して、コップに水を入れて一気に飲んだ。それから自分の部屋に入ってベッドに仰向けにひっくり返った。

「どう考えても、これは好きってことだよな」とぼくは口にだして言ってみた。それだけでまたぼくの心臓はトクトクと勢いよく血を流し始めた。

目を閉じると中村のほほえみが浮かんでくる。まずいと思ったぼくは目を開けた。

ぼくは、中村が好きだ……。

今日の中休み、ほほえみかけられるまでぼくは、中村を好きとか嫌いとか思ったことはなかったと思う。① どうしていつも大声で笑わないで、ほほえむのかなって気になっていたけど、それは好きとは関係ないだろう。違うのかな？

なんだかよくわからなくてぼくは不安だった。

この日から、ぼくは自分がすっかり別の人間になってしまったような気がした。

ぼくの頭の中は中村のことで一杯になり、気づくとすぐに中村を見ていた。教室でも廊下でも運動場でも、中村を探していた。

② 中村を見ているとドキドキするけど、ホッとして、ちよつと泣きたくなって、そんな自分に腹が立ったりした。

タクトたちとは、今まで通り、話をしているつもりだけど、すぐに会話から離れてしまう。「イオリ、集中力をどこに置き忘れてしまったんだよ」とタクトにあきれられ、「調子の波は誰にもあるし、イオリは今テンションが低い時期なんだよ」とルイになぐさめられた。

ルイにはそう言われたけど、ぼくのテンションはきっと高い。だって、中村のことで頭がいっぱいで、いつも熱いんだから。仲の良いタクトやルイより、中村のことが気になる。ぼくは友だちに冷たくなってしまった。

誰か（だれ）を好きになるっていうのは、少しずつ、ああ、いいなと思っていくのから始まるって考えていた。それから、付き合ってくださいって告白して、OKなら、休みの日に一緒に（いっしょ）遊びに行ったりする。そんな風に考えていた。

まさか、ちよつとほえまれただけで、突然（とつぜん）好きになってしまうとは思っていなかった。

アイドルをテレビやネットで見て、可愛い（かわい）なと思うとすぐに好きになるっていうのはあるかもしれない。でも、中村とは五年生から一緒に（いっしょ）で、どんな女子かは詳しく（くわ）知らなくても、クラスのメンバーとして、見慣れた女子の一人だった。中村はぼくにとって、そしてぼくは中村にとつて、別にA目（あ）新しい存在ではない。ぼくが六年二組のクラスの一員っていうのと同じように、中村もクラスの一員。それだけだった。それが、③（さん）どうして、こんな気持ちになるか、ぼくにはわからない。

好きになったとしても、ぼくは中村と付き合いたいとか、そんなことを全然思っていない。ただ、中村が気になって、中村を探して、中村を見ていただけだ。

だいたい、ぼくは中村のことをどれだけ知っているだろうか？

クラスの一員。大声で笑わない。話すときは小さな声。授業の時に自分から手を挙げたことはないような気がする。ぼくはこれまで中村を気にとめていなかったから、もしかしたら自分から手を挙げるのをぼくが知らないだけかもしれないけど。髪（かみ）はツインテール。これだって今まではどうだったか、ぼくは知らない。記憶（きおく）にない。

ぼくが持っている中村の情報はそれくらいだ。それなのにぼくは、中村を好きになっている。

十一年も生きてきたのにぼくは、好きになるってことを、全く誤解（ごかい）していたのだろうか？

家に帰ってからのぼくは、アルバムを広げて、遠足や運動会でのクラス写真を眺（なが）めるようになった。写真の中の中村を眺（なが）めてい

たかった。

五年生の遠足で行った科学館の前での集合写真の中村は右端二列目に立っていて、無表情だ。小さな写真なのでぼくは、虫眼鏡を出してきて拡大したけど、間違いない無表情だった。五年生の運動会クラス対抗で勝ったときの写真ではみんながはしゃいでいるんなポーズを決めて笑っているけど、中村はBぼそと立って無表情。実はぼくもそうなんだけど、ぼくの場合は運動会が苦手だからだ。中村もそうなんだろうか？ 中村は遠足も運動会も嫌いなんだろうか？

写真を見てわかったのは、中村は遠足でも、運動会でもツインテールだったってこと。それだったら今までも、ずっとツインテールなかもしれない。

無表情で無愛想でも、ぼくは写真の中の中村も好きだった。

中休み、タクトとルイの隙間から中村を眺め始めて一週間が過ぎた。ぼくはなるべく見ないように、見てしまってもすぐに目をそらすように努力したけど、それでも、すぐに見たくなかった。ツインテールの左側に時々触れるのとか、長いまつげがパチパチ動くのとか、ちょこっとだけ肩をすくめるのとか、そして薄いほほえみとか、それら全部が好きだった。

授業中、中村のツインテールも、首も、肩も、みんな見たいし、でも見たくないし、見るのが怖いし、ぼくは下を向いたり、黒板に集中したりして、時間を過ごしていた。

ぼくは、誰かを好きになると、浮き浮きして、楽しくなって、幸せになって、飛び回りたくなる、そんな想像をしていたけど、これってそういうのとは全然違った。

いつも、落ち着きがなくて、友だちとの会話にも乗れなくて、息苦しい。

^x好きって、きつい。

十日も過ぎた頃、いつも目で追ったり、写真を眺めたりする自分ってストーカーみたいだって思った。

やっぱり、本当に好きになるって、段々気になり始めて、好きって告白するっていう順番に進むことで、ぼくのはおかしいんじゃないかって不安になり始めた。

中村ばかり見ている自分がいやで、ぼくは中休みに眼鏡を外した。みんなの顔がボーツとしか見えない。

「イオリ、なんで眼鏡を外しているの？」とルイ。

「こうしていたら、目がかんばって見ようとするから近視がよくなる」

「眼科で、そう言われたの？」とルイ。

「言われてない」

「なんだよそれ」とタクト。

「ぼくが考えた」

「なんだよ、それ。で、どうよ」とまたタクト。

ぼくは二人の間から教室のみんなを見た。輪郭がぼんやりしていて、誰が誰かはあんまりわからない。だけど、そのぼんやりとした輪郭の中のどれが中村かはわかった。いつも上野の席に座っているからかなと思っただけ、上野と高木はどっちがどっちかよくわからない。

「イオリ、聞いてる？」

ルイがぼくの顔を覗き込んでいた。

「あ、ごめん。やっぱり思いつきだったわ」

「あっさり、自分の仮説を引っ込めるのな」とタクトが笑った。

「間違いはすぐにあらためるのが、ぼくの良いところ」

と言いながらぼくは、眼鏡をかけた。

昼休み、校庭でぼくたちはいつものようにパス回しをして遊んだ。桜の木の下に、中村と上野と高木が集まって話をしているが見える。ぼくの視線はまた中村に貼り付いてしまった。

だめだ。

「イオリ、パス」

タクトの声がして、ぼくの横をサッカーボールが転がっていった。

「まじめに遊ぼうな」とルイが言って、「まじめに遊ぶのは変だろ」とタクトが笑った。

「あ、悪いけど、ぼく、疲れたから休憩」とぼくが言うと、「体力なさすぎだろ」とタクトが言いながら手を振った。

ぼくはベンチに移動して座った。やっぱりぼくは中村から目を離せない。

ぼくはまた、眼鏡を外してみた。そして中村たちのいる方を見た。上野と高木は、どっちがどっちか全然わからないけど、こんなに離れていても中村はわかった。中村だけにピントがあっているわけじゃない。中村もボーッとしか見えないけれど、あれが中村だってことはわかった。

そんなの、理屈に合わないって、ぼくの中のぼくが主張する。そして、ぼくも、そっちの意見の方が正しいと思う。だけど、ぼくの裸眼は中村を他の人と区別できている。

一体ぼくはどうなってしまったんだ。好きになるって、変な能力をアップさせてしまうのだろうか？

五、六時間目の授業をなんとかクリアしたぼくだったけど、遠くから眺めていたり、背中を見ないように下を向いたり、このままの状態が続いていくのはなんだか耐えられなくなってきた。

Y 好きって、きついでよ。

決心をしたぼくは、④校門で中村に声をかけた。

「中村、えくと」

「何？」

中村の無表情に、逃げ出したくなかったぼくは、何を言ったらいいかわからなくなった。

そしてぼくの口から出た言葉は、「なんで、いつも思い切り笑わないの？　なんでいつもほほえんでいるの？」だった。

最低だ、ぼく。失礼だ、ぼく。好きになるって、きつすぎる。

中村はぼくを見つめて、ほほえみを浮かべ、答えた。

「だって、学校、嫌いだから。嫌いな場所で心から笑うなんてできないよ、西山」

え？

⑤そんな答えが返ってくるなんて思ってもみなかった。って、ぼくはどんな答えを期待していたんだろう。

「中村、勉強がきらいなの？」

「好きなのも嫌いなものもあるよ。算数は好き。国語は嫌い」

「そっか。ぼくも算数は割と好きだな。成績は悪いけど。国語は、漢字を覚えるのがたるいな。中村、勉強が嫌いってわけじゃないんだ」

「そう。学校が嫌いなだけ」

「えくと。じゃあ、学校の外では、ギャハハとか笑うの？」

だめだ。ぼくは何を言っているんだろう。ああ、もう、早くこの場から立ち去りたい。

でも、ぼくは中村から目をそらさなかった。ってか、やっぱり見ていたかった。

「ギヤハハはないよね、西山」と中村はぼくをにらみつけた。

「ないか。ごめん」

「ハハハだったらあるかも」

「そっか。それ、見てみたい」

「なんだ、それ。西山、大丈夫？」

どうなんだろう。ぼくは答えた。

「大丈夫じゃないかも」

(ひこ・田中^{たなか} 『好きって、きつい。』)

問一 「ぼく」の氏名を五字で答えなさい。表記は本文中のものに従うこと。

問二 ー線A「目新しい」、B「ぼそっと」の本文中の意味として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

A 「目新しい」

ア もの慣れない感じである

イ いまの世にあった風である

ウ 清らかでけがれない

エ 本当にまったく新しい

オ いままで見たことがない

B 「ぼそっと」

ア 小声でつぶやくように言うさま

イ 暗い表情でひとり過ごしているさま

ウ 何もしないでぼんやりしているさま

エ 穴があいたかのように空白の部分ができるさま

オ 事情のみこめず目を見開いているさま

問三 —線①「どうして〜のかな」の答えとして最も適当なものを次のア〜オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 表情豊かに人と接することがそもそも得意ではないから。

イ 学校には遠足と運動会という避けたい行事があるから。

ウ 授業では漢字を覚えなければならず乗り気がしないから。

エ 人間関係を築いていくのがわずらわしく嫌になるから。

オ 学校自体好きではなくのびのびとふるまえないから。

問四 —線②「中村を見ていると〜腹が立ったりした」の説明として最も適当なものを次のア〜オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア なぜだか分からないが中村を好きになってしまい、思いを伝えられずに辛い。

イ 中村の気をひいても反応がとぼしく、どうすればいいのか途方に暮れている。

ウ 親しい友達とは距離が生まれたが、中村に好意を寄せることをやめられない。

エ 中村と話している友達を見て、うらやましく思うと同時に妬ましく思っている。

オ 中村を好きになって以来、感情が制御できなくなり心がかき乱されている。

問五 —線③「どうしてもわからない」とはどのような心情ですか。次の説明文の空らんに入る最も適当な言葉を本文中よりそれぞれ二字で探し、抜き出しなさい。

好きになるといふのは思いが A () 深まり告白するといふ B () をとると思っていたのに

中村を C () 好きになてしまった自分自身がいて 落ち着けないでいる

問六 本文中には「ぼく」とその友だちとのかけあいがあるが挿まれています。その効果の説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 友だちとの会話や遊びに集中できない様子を書くことで、恋する自分に酔う「ぼく」の内面を暗に示そうとしている。

イ 眼鏡を外したり遊びの輪から外れる様子が、中村に夢中になる「ぼく」の様子を連想させる関係になっている。

ウ 友達に無愛想に応じる「ぼく」と対照させることで、中村の虜となっている「ぼく」を浮き彫りにしようとしている。

エ 眼鏡を外してもなお中村がはつきり見えてしまう「ぼく」の様子を描く呼び水のような役割を果たしている。

オ 落ちつかない言動を繰り返す「ぼく」を描くことで、中村のことで地に足がつかない「ぼく」の様子を印象づけている。

問七 —線④「校門で中村に声をかけた」意図の説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア どうしようもなく続く息苦しさをやりすごそうとした。

イ 自分が苦しむ状況にこれ以上逃げずに向き合おうとした。

ウ 何をしてもうまくいかない辛い現状を共有しようとした。

エ 現状を打開すべく自分の思いを打ち明けようとした。

オ 好意を寄せている相手の気持ちを確認しようとした。

問八 ー線⑤「そんな答え」とありますが、この部分についての説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分のもやもやした気持ちを晴らそうととりあえず言葉をかけたが、表情をあまり見せない相手に戸惑い、苦し紛れでぶしつけない言い方をしてしまった。その結果得られた、好きな人が心に抱く悩みが伺える応答。

イ ようやく辛い内面を理解してくれる友達と出会えてうれしかったが、はつきりうれしさを伝えるのも無粋に思われた。そこでその場の雰囲気を壊さないよう、聞かれたことに対し簡潔に答えている応答。

ウ 自分が置かれた状況に耐え切れず意を決して言葉をかけたが、親密な関係が築けていないのに内面に触れるようなことを聞いてしまった。にもかかわらず素直に答えてくれている応答。

エ クラスが同じだとはいえ、ほとんど話したこともない相手から突然理不尽な言葉を投げかけられた。怒るべき部分は多々あるが、好意を不器用な形で表現してくる相手をかわりらしく思っ出て出た応答。

オ とにかく息苦しい状況から解放されるために言葉をかけたが、思いがけずある種の秘密を共有することができた。結果、お互いの息苦しさが解放たれていくことに小気味よさがそはかどなく感じられる応答。

問九 ー線X・Yの表現の効果について、心情の変化に触れながら四十五字以内で説明しなさい。

